

一般財団法人
山鹿市地域振興公社

経営状況説明書

平成30年度の決算に関する書類

1 事業報告書

2 決算報告書

(1) 収支計算書

(2) 正味財産増減計算書

(3) 貸借対照表

3 財産目録

平成30年度一般財団法人山鹿市地域振興公社事業報告書

平成30年4月1日から平成31年3月31日

1 総括事項

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づき設立認可された一般財団法人山鹿市地域振興公社の平成30年度事業実施に当たり、山鹿市の「公の施設」5施設の指定管理を引き続き受託し、市民サービスの向上、福祉の増進に努めるとともに、市民の文化・観光及びスポーツ振興の積極的な推進を図った。さらに、自主事業及び公益目的事業を展開し、利用者の満足度向上に努めた。

観光施設においては、市の政策及び主要三施設の事業展開等との連携を図りながら、特にさくら湯においては、開湯から堅実な施設管理を続けた成果となる入湯者100万人を達成した。また、文化施設においては、八千代座と市民交流センターの連携による日露交歓コンサートを開催し、体育施設においては、女子ハンドボールアジア選手権大会や日本ハンドボール選手権大会等の大型の大会を市と連携して開催し、次年度につながる管理運営のノウハウの蓄積を図った。

公社全体としては、山鹿市サイクリングターミナルと山鹿市民スポーツセンターの指定管理がなくなった影響が懸念される中での堅実な経営を行うとともに、熊本地震で得た教訓を忘れず、安心・安全な施設の管理運営を行った。

2 事業の内容

(1) 自主事業・公益目的事業

ア 文化振興・福祉向上事業

- (ア) 観光都市やまがをPRする人材育成を図るため「山鹿市旅先案内人養成講座」を実施し、市民によるボランティア活動を積極的に支援しながら、山鹿を訪れる観光客の受け入れ態勢の充実を図った。
- (イ) 山鹿市旅先案内人の会による土・日祝日の山鹿灯籠民芸館内でのボランティア案内を実施し、年間を通して山鹿市の歴史・文化や伝統工芸品等の広報活動を行った。
- (ウ) かつて映画館でもあった八千代座の歴史と、地域で失われている映画鑑賞機会の提供を目的に優秀映画鑑賞事業を行い、山鹿市における映画文化の推進を図った。
- (エ) 八千代座において、地域に根ざした芸術文化の創造を目的として狂言教室、子ども歌舞伎教室等の八千代座文化講座事業を実施した。
また、大宰府で開催される「ちびっ子夢ひろば」に子ども歌舞伎が招聘された。
- (オ) 八千代座において、子どもの演劇体験用の照明機材等を用意し、それを使用しながら演劇演出等を実施する舞台文化育成事業を行った。
- (カ) 八千代座において、熊本県及び熊本県立劇場と連携し実施するネットワーク型の公演事業として、日露交歓コンサート歓迎公演を市民交流センターと連携して行った。

- (キ) 八千代座において、インバウンド観光客も含めた施設見学者が、写真撮影等の際に利用できるような舞台小道具を設置し、芝居小屋をもっと楽しんでもらうための見学満足度向上事業を行った。
- (ク) さくら湯において、市民の手芸作品等の展示や音楽愛好家による池の間コンサート等の「山鹿湯町企画展」や「アロマテラピー教室」の実施による施設の活用を図った。また、恒例年中行事として「菖蒲湯」、「敬老湯」、「ゆず湯」、「金柑湯」を行うほか、「父の日・母の日」の企画湯も実施した。
また、山鹿市とともに取り組んでいる着地型観光商品・山鹿あそびの「灯籠温泉卓球」と「池の間カフェ」を実施した。
- (ケ) 山鹿温泉の元湯であるさくら湯において、夏場の簾かけ及び風鈴の設置を行い、季節感と温泉町風情を醸成する取り組みを行った。また、山鹿さくら湯開湯まつりの主管事業として「肥後にわか」「アコースティックライブ」等のステージイベントを実施した。
- (コ) 5回目となる「町湯めぐり」を実施し、山鹿温泉と平山温泉の11温泉施設によるスタンプラリーを行い、市内の回遊性を高めるとともに温泉地・山鹿市の地域連携とPRを図った。また、八千代座・山鹿灯籠民芸館と連携し、共通入館券によるさくら湯入浴料割引を継続して実施した。
- (サ) さくら湯の龍の湯を活用し、市内小学生1年生を対象に、山鹿温泉の歴史や入浴マナー等を学ぶ体験事業及び市内金婚夫婦招待事業を山鹿市と共同で実施した。また、市内小学校の長期休暇に併せ実施している子ども入浴料無料の「早起き朝湯」事業についても継続して行った。
- (シ) 市民の運動不足の解消、健康増進等を図る目的で、市内外、男女、年齢に関係なく楽しめる「第17回新春ビーチボールバレー大会」を実施した。
- (ス) カルチャースポーツセンターにおいて、①期間内に何度も利用できるトレーニングジム会員制度②スポーツトレーナーによるシェイプアップ・体力向上プログラム等を取り入れたフィットネス会員制度③ジムとフィットネスの両方の講座を利用できるダブル会員制度の3種類の会員制度を継続して行った。また、フィットネスの新しい種目を取り入れて、参加者の増加および施設の利用活性化と市民の健康増進に取り組んだ。
また、さくら湯と連携した「アロマの香りとヨガによる健康運動教室」も引続き開講し、体育館利用の活性化・市民の体力増進・健康維持を図った。
- (セ) 「2019女子ハンドボール世界選手権大会」開催へ向け、市民がハンドボール競技への関心・理解を深めてもらうことを目的に、総合体育館ロビーにおいて「1997男子ハンドボール世界選手権大会」、「ハンドボール日本リーグ・オムロン戦」、「ハンドボール日本選手権・女子決勝戦」等の映像を流し、気運醸成のための広報活動を行った。
- (ソ) 山鹿灯籠民芸館において、平成30年度常設展として「4人の女性灯籠×三角西港をつくる」展を実施し、また市内の催事等に併せた企画展として、山鹿灯籠まつり開催にあわせた世界遺産登録「崎津教会」の山鹿灯籠作品の展示と、山鹿灯籠浪漫百華百彩期間にあわせた松本清記灯籠師制作の「切り灯籠」の展示を行い話題づくりと入館者増を図った。

- (タ) 山鹿灯籠民芸館において、山鹿市とともに取り組んでいる「山鹿あそび」のフォトスポット事業を継続実施し、若い世代を対象に見学者増を図った。
また八千代座やさくら湯と連携した観光客への催事情報の発信を強化するとともに、ツアー等誘致のための旅行会社等へのダイレクトメール等を行った。
- (チ) 市民交流センターにおいて、ホワイエ活用事業としてミニコンサートや各種作品展示会などを継続して行い施設の利用促進を図った。
また、施設備品であるフルコンサートピアノを活用し、自らが演奏するピアノコンサートの雰囲気を経験する「フルコンサートピアノを弾いてみませんか」を実施し、施設の特性を活かした事業を実施した。
- (ツ) 市民交流センターにおいて、新規に熊本県公立文化施設協議会に加盟し、熊本県や県立劇場等と共催による「日露交歓コンサート熊本公演」を八千代座と連携して実施した。

イ 文化・スポーツ等の情報提供に関する事業

- (ア) 山鹿市名刺録を発行した。
- (イ) 西南の役の史実である山鹿口の戦いを市内外に知ってもらうため「西南の役山鹿口の戦い」を販売した。
- (ウ) 会社のホームページ及びダイレクトメールを活用した情報発信を行い、施設利用者の拡大を図った。

ウ その他の関連事業

- (ア) 観光名刺台紙を販売した。
- (イ) 山鹿市のお土産品としてハローキティグッズを販売した。
- (ウ) 山鹿の伝統的工芸品「(山鹿灯籠) 金灯籠」をモチーフとした手持ち灯り(姫灯籠)を販売した。また、手持ち灯りを活用した制作体験を実施した。
- (エ) 山鹿灯籠への理解を深め、親しんでいただき、山鹿灯籠民芸館の集客をはかるために、「ミニ灯籠」制作体験を実施した。
- (オ) 山鹿市全域の観光情報等を発信する観光案内所及び観光レンタサイクルの充実を図った。

(2) 受託事業

次の各施設の管理運営及び受託業務にあたった。

「指定管理者制度施設」

- ア 八千代座等
- イ 山鹿市さくら湯
- ウ 山鹿市カルチャースポーツセンター
- エ 山鹿灯籠民芸館
- オ 山鹿市民交流センター

「受託業務」

- ア 山鹿灯籠踊り保存会及び観光振興業務
- イ 山鹿市立博物館の受付業務
- ウ 山鹿市情報発信拠点創り事業

3 事業収入に関する事項

公社の基本財産30,000,000円の運用利息7,500円、文化振興福祉向上事業費収入（公益目的事業収入）1,675,400円、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業費収入及びその他の関連事業収入1,903,200円、「公の施設」管理運営等の指定管理料及び利用料金205,471,189円、雑収入292,583円、前年度繰越金63,551,564円（基本財産3,000万円含む）を加えた公社事業費総収入額は、272,901,436円であった。

4 事業支出に関する事項

自主事業（文化振興福祉向上事業、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業、その他の関連事業）経費3,032,924円（公益目的事業含む）、「公の施設」管理運営等に伴う経費183,229,625円（公益目的事業含む）、管理費(公社事務局運営費)6,972,898円、特定預金支出3,063,000円、租税公課8,497,100円、公社事業費支出費総額は204,795,547円（内公益目的事業8,962,671円）であった。

5 その他の事項

令和元年度(2019年度)への繰越金は、68,105,889円（基本財産3,000万円含む）である。